



農村に於けるチフス流行時の豫防注意

各自が病氣に對する理解を有て!

無智と無性と不潔は病氣を招く基

ドクター 高岡専太郎

サンバクロ市ではチフスの流行が下火となつた時に拘らず、地方では尙ほ警報を送らしてあります。私共が或地方へその豫防の爲め出張して歸る毎々又他の地方では新に流行しており、盛んに犠牲者を出して居るといふ報を得ました。不取豫防に對する警告を發する次第であります。

▲ 腸チフスと移植氏

マリキやエリトーラ病などは移植氏の發達に従ひ年と共に漸減する傾向がありますが、チフスの方は却々新深い病氣で、恰度移植民諸君が奮闘努力の結果經濟的に發展の土臺が出来かゝつた時分、即ち入植四五年もうちこれからといふ時に開拓地を襲ひまして甚なから犠牲者を出すのであります。そして一度發生した農村には容易くその根が絶えず、病菌が幾つて居て再三燃え出すといふ至極厄介な病氣であります。でありますから古いアゼンダだからこそ病氣ばかりは決して安心はなりません。

各自が充分この病氣に對する理解を有ち豫防に心掛けねばならぬ理由はそこにあるとします。

▲ チフスは豫防し得る疾病

チフス病はエーベルト氏桿菌の人体侵入に依つて起るもので、幸ひな場合は六週間で恢復しますが、不幸の場合には心臓の衰弱或は腸出血者では腸が破れて穿孔性腹膜炎を起して死ぬ事があります。農村では百人罹ること三十人は死んで了る。即ち三人に一人は死ぬ割合になり随分危険な病氣であります。けれども現代の醫學進歩の賜物で充分豫防する事が出来る病氣となつております。病氣の徵候とか治療法とかの詳しい事は除さうでは直ちに豫防法に就て申上げませう。

▲ 病氣の人體に入るのは口から

であります。チフス菌は病人の大小便から生きた體で排出され、病人の身體、衣服、夜具蒲團其他病人の周りにある器具に着いて居て、それらを取扱ふ人が其の手を觸れた爲め

(イ)直接手指から其人の口に入つて病氣を起します。そして其の場合が一番多いとあります。

(ロ)病人の大小便が不注意に取扱はれた場合に病菌が附近の水の流れに入りその下流の水を飲む人に傳染します。

(ハ)病人の衣服や器具、大小便などの世話をする者の手から病菌が撒かれても傳染する事も多めあります。

(ニ)厄介なのは蠅による傳染であります。それは病人に直接触つたものや大小便に触つたものが遂に病菌を散布致します。時には見舞人の手つて来た馬に附いて農村まで病菌を運んで行く事もあります。蠅の足には無数の菌を附けており普通は五日間生きておりますが、蠅の肉體に入ると十五

日間も生きると申します。

▲ チフス菌の性質

以上は病菌傳播の徑路であります。豫防法を述べる順序としてチフス菌の性質を簡単に申上げて置きませう。チフス菌には三種あり(一)チフス、(二)バラチフス A (三)バラチフス B と分けて置きますが性質は三つとも大體同じを見て差支へありません。極めて小さな生物で顯微鏡で千倍にして漸つと見得る位のもの、人の體内では急速に繁殖しますが外界では光線の當る所、乾いた所、それから熱に會へば長く生きて居りませぬ、殊に熱に對しては抵抗力が弱く煮沸熱では直ぐ死んでしまいます。併し反対に濕つた場所や日陰などには長く生活して居まして數日乃至年餘も生存します。

病人のある家の注意

一、患者は絶対に隔離

病人がある場合は、其病人は絶対に隔離して、特別の部屋に寝かせて置き一定の看護者を限り、他の者は決して接近させない様に致します。

二、見舞人饗應は大禁物

萬一人が見舞に來ても飲食物を饗應の意味で出す事は大禁物であります。大體病氣の農村で傳染する道筋は多くは最初親戚又は懇意な人に行つて居ります、之れは多く病人の家で出された飲食物からの感染が多から

であります。

三、汚物の捨場を一定せよ

患者の大小便は深く穴を掘りその中に捨て、清淨薬(クレオリトナ)で宣敷し、同時に土をかけ外へ病菌が散亂しない様にします。穴は一度深く掘つて置き漸次に土をかけけば、一々掘る必要がなく散亂の憂もありません。

四、家内外の溝渠に注意

病人が一度出た家は特に室内を清潔にするは勿論、家の周囲の水溜り、溝渠の流し下などの場所を乾かせなくては不可ませぬ。何故なら此の病菌の性質として溝渠の所に非常に長く生きるからであります。溝渠は數ヶ

月前は一年以上も生きる事があり、偶然の機會から傳染の場合はあります。

五、籠を作り植物を除け

農村を觀察するに、家の近所のゴミ捨場が物陰になつて居たり、或はバナの蔭で湿つて居たり、又は直ぐ家の傍に里芋を植えそのまま大きな菜の蔭で湿つた場所を作つて居たりするのを見受けます。溝渠の場所を構る様な植物は除去する必要があります。物陰の溝渠は菌を保存して供給するアルマゼンの危険があり、このアルマゼンは食を擰はなくてても作物を供給するに寄合でないから危険此上もありません。

六、非水にも危険あり

—(5)—

—(6)—

—(7)—

—(8)—

井戸の水も患者がある場合は危険であります。それは洗濯物等の關係で洗濯した水を流しますが、井戸の周囲が完全に出来て居ないご例へば蓋がなかつたり、周囲が充分コンクリートで固めてない場合は井水中に浸み入り、井水が汚染されるといふ本筋であります。故に井戸の周囲一間位は流した水の浸透しない様、たゞさで固める必要があります。汚染されたと思つた場合は薬を用ひて消毒をします。

水の消毒薬 (Hypochlorito de Calcio 50 gr.) 使用法

- 一、原液の作り方 五十㍑のビガクロリトアカルシカを一リットルの水に入れ充分振盪して出来た白く濁つたものが原液であります。
- 二、井戸に入れる場合 水の深さが四メートルから六メートルの場合原液一リットル全部を投入して三時間後にはります。若し菌が附り水が増すか濁つてゐる場合は倍量即ち二瓶を入れます。

-(9)-

- 三、旅館飲食店若くは大勢衆内で一々煮沸した水を使ひ切れた場合 石油罐に一杯の水にソッパの匙半杯の原液を入れ水四十リットルに原液ソック匙一杯の弱攪拌して用ひます。ナス菌などは直ちに死んでしまう若し前略液を入れて翌朝使くは缶詰水を用ひて若くはなりません。消毒薬を入れる水の容器は食物は罐から木製の群が宜敷い。
- 四、原液保存の仕方 原液の使ひ残りは光線の透らぬ冷涼の場所例へば床下などに置けば二ヶ月位もは効力があります。

七、菌攜帶者の危険

病氣が発つても一ヶ月位は大小便から生きた菌が出ておりますから豫防上病人同様に注意する必要があります。のみならず稀には一ヶ月経つても續いて生きた菌を出して居る者があり、厄介な事にはチフスの流行地近傍では無病状態の人でチフス菌を盛んに排出して居る者も極めて稀に見受けられます。

-(10)-

れます、之等を醫學上では菌攜帶者と申して居ります。菌攜帶者は豫防上では全く病人同様で却つて自由に歩き廻るから歯を矢張に撒布する上から病人以上にも危険が伴ひます、故に農村として病氣が一時無くなつたとしても決して油斷はならぬ理であります。

各人に對する豫防法

-(11)-

- 一、食事毎に手を洗ふ事 食事の毎に石鹼で手を洗ふ事であります。特に消毒薬を便へば結構だが單に水で洗つた上更にアルコールで洗つた上で宜敷い、之は私が職業

上常に経験して危険から免かれ得る秘訣であります。

二、食器は熱湯で洗へ

井戸がない爲め、危険な流れの水を呑む場合は、必ず煮沸したものを利用する事であります、同時に食器其他食事に使用する器物は、疑しい水で洗つた場合は呑むと同様の危険が伴ひますから食器は凡て熱湯で洗ふ事であります。

三、危険な蠅を驅除せよ

蠅を驅除するには室内並に家の周囲に、蠅の發育處である所の濕つた汚い物の場所を無くする事であるが、實際は農家として困難な注文であります。故に特に危険を防ぐ目的で食器は密閉出来るアルマリヨに入れて

置く事、蠅を觸らせないように注意する事であります。食べ物も同様で例へばボンは焼いてあるから安心してはなりません、どんな食べ物も蠅を觸らせたら不可ません。

四、常に清潔を保て

身體や着頬凡て常に清潔に保つ事があります。不潔は傳染の大原因であります。

五、患者に接近するは不可

人情の上から患者の家を無闇に見舞はしてはなりません。患者に接近するといふ事は、自分ばかりではなく病氣を他へ運ぶ場合が多い、病氣に對する理解を有つものへ爲すべき事ではないであります。

六、豫防注射を實行せよ

豫防方法として最後に豫防注射を部落全般に施行された事をお勧めしたい、太體チフスの豫防注射は歐洲戰爭後、研究改良の結果、實際的効果を挙げたのであります。その効力は確實であります。注射に依つて人體に害を本ずやうな事はありません、たゞ心臓病ある人、五ヶ月以上の妊娠は豫防に申出て注射を避ける要がある位で、現在の方法なら五歳位の小兒でも注射に堪える事が出来ます、豫防注射をした場合でも極めて稀に罹る事がありますが頗る軽症で死亡率は少ない。が注射の効力は要するに絶對的でないのみならず其効力は約一ヶ月位で永久的ではありません。故に各自が上に述べた注意を不斷實行され豫防の効果を持久的ならしむる様心掛けられ

ん事を望みます。

大正十四年十月三十日

在伯日本人同仁會發行

-(13)-

-(14)-

-(15)-

同仁會發行書目錄

- 同仁會衛生叢書第一編 漢邊醫學士 有兒法 (既刊)
同仁會講演集第一號 漢邊醫學士 急性傳染病 (既刊)
高岡ドクトル 热帶病 (既刊)
同仁會衛生叢書第二編 漢邊醫學士 重小兒病考方取扱方 (既刊)
同仁會衛生叢書第三編 高岡ドクトル ルブラジウム毒蛇に關する人向の智識 (近刊)

-(16)-